

「贈り物についての関わりの重要性」

フィリピの信徒への手紙 4 章

贈り物への感謝

10 さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、

わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあっても、それを表す機会がなかったのでしょう。

11 物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。

12 貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。

13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。

@@@

1) 覚えられていることのありがたさ

パウロはフィリピの人たちからの贈り物を受け取って本当に大きな感動に包まれました。

しかし、パウロは品物についての感謝よりも、自分のことを忘れていない人たちへの感謝で心がいっぱいになっています。

フィリピの人たちは今回だけでなく何度かパウロの窮状を知り支援してきました。

そして今回も積極的に品物をパウロに届けました。

物資を贈るにしても、献金するにしても、パウロは自分のことを、心に留め、覚えていてくれて、この時にこそ品物を提供してくれたその愛の行動に心を動かされています。

10 さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあっても、それを表す機会がなかったのでしょう。

しばらく贈り物や献金がなかったのは彼らがあれこれ考えてタイミングが合わなかっただけだったのですよね、とパウロは理解しています。

どうして今まで献金をしてくれなかったのか、どうして今まで品物を送ってくれなかったのか、文句を言うのは簡単ですが、

それをしたら、嫌味を言われたことになるので、関係が一気に悪化するでしょう。送った側は、感謝もしないで何なの

だ、恩知らずだな、という反応になるからです。

パウロは、あなた方がずっと私のことを心に留めていてくれたことは良くわかっています。感謝しています。ただ皆さんはそのタイミングを逸しただけですものね、と伝えているのです。

これはパウロにとっては大切な生命線でもありました。しかし、パウロは、神様がいてくださり、神様のお陰で私はいろいろな状況の中で泣き言を言わずに耐える道を学んできました。

2)「私を強めてくださるお方のお陰で」

パウロは、贈り物があってもなくても、きっと大丈夫なのだと信じていますと断言しています。

これは負け惜しみではなく、パウロが体験してきた実感なのだと思います。

それでも贈り物は嬉しいし、覚えていてもらえることはもっと嬉しいことなのです。

神様との絆がある、という確信はパウロの人生の土台であり、安心感の拠り所でした。

大丈夫なのだ、とパウロは断言しています。

こういう言い方はなんとなく負け惜しみのように聞こえてしまうことがあります。

あるいは、強がりの言葉のように聞こえてしまうことがあります。

誤解されやすい言葉です。

でも、パウロはそれを恐れず、自由な裁量の中で捧げ物が提供されていることを大いに喜び

逆に自由に捧げないこともあって当然なのだと理解しているのです。

捧げる人もいれば、捧げない人もいる、あるいは、捧げたくても捧げられない人がいることを

パウロは知っています。でも、お互いに存在を覚えていて、その相手に必要となるお金や品物が

存在していることも知っているという意識が大事なことでと理解しているのです。

パウロとしても助けに行きたくても牢獄に拘束されていますから自由に動くことができないわけですから

「できる」「できない」という事柄については、互いに責めることができないのです。

しかし、パウロは人間として、フィリピの人たちとのネットワーク、つながりを保っていただける事で、

自分の働きが無駄ではなかったことを実感しているのです。

つまり、フィリピの人たちにはパウロを支援して常にサポートする義務はありません。

パウロは、私には神様がいるから大丈夫と宣言しています。

義務からではなく愛と尊敬、感謝から、任意で、自発的にサポートの品や献金を送られてくることをパウロは心から感謝しているのです。

捧げる側にも自由があり、感謝の表明を心から表しています。

そして、それを結ぶ両者の間に「いてくれてありがとう」の尊敬があるのです。

その関係構築は重要です。

* * * *

Youtube での MACF 礼拝映像は

<https://youtu.be/0UXGd09EoZQ>